

学校教育目標『心豊かに 自ら学び 自己実現を目指す生徒』

沼津市立愛鷹中学校

鷹 根



学校だより NO.5

平成28年12月7日

愛中学生会のテーマ『To be a smile』 笑顔いっぱい

(11月終礼の話より)

突然ですが、ALTのアンドレ先生とのお別れについて話します。アンドレ先生には1学期途中から言語英語などでお世話になっていたのですが、ここでお別れすることになりました。アンドレ先生は沼津市が契約している英語講師の派遣会社から来ていただいていたのですが、そちらの会社の関係で明日を最後の勤務になりました。特別にお別れの時間は設けませんが、明日もありますので機会をとらえてお別れをしてください。皆さんとアンドレ先生の授業を振り返ると、驚かされたり、笑い声や明るい笑顔が耐えなかつたりしている様子が浮かんできます。そこで、今日は笑顔のことを話します。

Yahooで検索したところ、「笑顔の作り方」の画像215万件という表示がありました。世の中の人々は笑顔を作ることに関心があり、苦勞もしているのかなと思いました。

さて皆さん、「笑顔」で思いつく顔はどのような表情の顔でしょうか。思い浮かべてください。微笑み（これは声を出さないものですね。）、おかしくてまたは楽しくて声に出して笑っている顔、苦笑いしている顔、恥ずかしそうにはにかんでいる顔、笑っている顔はいろいろありますが、笑っている顔すべてが笑顔とはいえないですね。笑いの中には嫌な笑いもあります。人を馬鹿にしたり、悪口を言って楽しんでいる笑い、活動が始まっている時間に勝手なことをしてふざけ合っている笑い、これらの嫌な笑いは不愉快極まりないですね。不愉快に加えて、そのような笑いが広がる場所では、皆さんに創りあげてもらいたい自分と仲間を大切にする自治社会が崩される不安が大きくなります。

前回朝礼の代わりにお昼の放送でこんなことを話しました。「目標、目的を持ち、前に進んでいる時の学校・学級は、活気、楽しさ、和やかさ、落ち着き、集中力、思いやりが至るところで見られます。」と。そして、その場には「自然と笑顔が生まれます。」

最近、私には笑顔について楽しみが増えました。それは「To be a smile」の目標を立てた後期生徒会本部が、カウンセラールーム前に、各学級の「今日の笑顔」を毎日掲示できるようにしてくれたためです。私は毎日楽しく読ませていただいています。いろいろな出来事が書かれているのですが、そこに書かれた内容から、学級の活気、楽しかったこと、和やかな雰囲気、授業での集中した姿、クラスメートの思いやりのある行動に感謝する心などを知ると、眉間のしわが緩んで目尻が下がります。

12個の微笑ましい内容に一度、そして、今日も愛鷹中では、誰もが笑顔になる出来事がたくさんあったことに二度笑顔をいただきます。皆さんも「今日の笑顔」の当番が回ってきたら、仲間や学級のよい場面を振り返って、2度目の笑顔を楽しんでください。そして、なにより笑顔の元となる学校生活を楽しく築いていきましょう。

※ 11月18日から新しいALTとして、ダニエル先生(愛称J.B)が赴任しています。



学力・学習状況調査から見てきた愛鷹中生の学力と生活 - 1

4月19日に3年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果を受けて、愛鷹中生の学力、学習状況や生活習慣について分析しました。今回は学力、学習状況について、すでに3年生に伝えた内容から一部抜粋して報告します。生活習慣については次号に記載します。

(○・・・良い表れ ▲・・・気になる表れ ■・・・全国と比べて下回るもの □・・・平均正答率が低かったもの
▽・・・無回答率が高かったもの)

国語

- 全国と比較して、A問題B問題ともに正答率がやや高い。
 - 全国と比較して、A問題B問題ともに解答しようとする意欲が高い。
- <課題とみられる問題に対する具体的な分析>
- A-9六 毛筆で字を書く際に、字形や文字の大きさに注意しているかを選ぶ問題である。
(分析) 書写の授業の中で、自己評価や相互評価の過程を設け、目標を持って書くことで、字形や配列に対する意識も高まるものと考えられる。
 - A-9七1 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。(追ひし→おいし)
(分析) 意味を書いてしまう、「追」を漢字のまま書いてしまうなどの誤答が多かったと考えられる。問題を正確に読む習慣をさらに持たせたい。
 - B-2二 情報カードにまとめる内容として適切なものを選択する。
(分析) 長い文章や複数の資料から必要な情報を読み取る問題である。キーワードや要点に線を引きながら読んだり、それらを一文で書いたりする学習の積み重ねを行っていききたい。
- <改善に向けての取組>
- 国語科で付けた力を、国語科はもとより他教科や日常生活等につなげる意識をつけていくことで、言語活動で身につけた力を活用していく。

数学

- 全国と比較して、正答率はA問題の資料の活用は同程度であるが、それ以外の領域はA問題B問題ともに高い。特にB問題の図形の領域は非常に高い。
 - 全国と比較して、A問題B問題ともに解答しようとする意欲が高い。
- <課題とみられる問題に対する具体的な分析>
- A-2-1 ある数を3でわると、商がaで余りが2になるとき、ある数をaを用いた式で表す。
(分析) 余りの2も3倍して考えた生徒、文章を式化できない生徒が多かったためと思われる。
 - A-8 証明で用いた図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選ぶ。
(分析) 対象図形が少しでも変われば、再度証明の必要があると答えた生徒が多かった。
 - A-1-(1) $\frac{2}{5} \times 0.6$ を計算する。(正解は $\frac{6}{25}$ または 0.24)
(分析) 2.4 や 0.024 など正答と異なる位置に小数点を書いているものが多かった。
 - ▽ B-6-2 文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する。
(分析) $5a + 10$ から a に式変形をする問題であるが、与えられた式を用いて問題を解決する方法を説明することに難がある。(正答例: 10を引いて5でわる 5でわって2を引く)
 - ▽ B-5-2 25.5 cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く。
(分析) 「相対度数」という用語の意味と求め方を理解していない生徒が多かったためと思われる。
- <改善に向けての取組>
- 分数・少数の計算を苦手とする生徒は多い。分数係数・小数係数の方程式は扱うものの、その際には等式の性質を使い整数係数に直してしまうので、単に分数・小数の計算をする機会は中学では少ない。日常必要になる計算なので、機会を捉え反復練習を行っていく。
- 図形の領域では、教員が提示した一つの図形(プリントに印刷された図形)で考察するだけでなく、生徒自身に描かせ、その上でどの図においても証明されたり、成り立ったりすることを味わう機会を数多く持たせる。